

平成29年度 第2回 埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会 議事録

期 日 平成29年8月10日(木)
場 所 戸田市立教育センター 会議室
開 会 午前 9時30分
閉 会 午前11時30分

出席委員 蕨市教育委員会 松本 隆男 教育長
蕨市教育委員会 加藤 正明 委員
戸田市教育委員会 戸ヶ崎 勤 教育長
戸田市教育委員会 仙波 憲一 委員

事務局 蕨市教育委員会 杉田 勝弘 教育部次長学校教育課長
蕨市教育委員会 荒川 順一 学校教育課主幹
蕨市教育委員会 近藤 大志 指導主事
戸田市教育委員会 鈴木 研二 教育部長
戸田市教育委員会 渡部 剛士 教育政策室長
戸田市教育委員会 手塚 浩 教育センター所長
戸田市教育委員会 伊藤 和三 主幹兼指導主事

傍 聴 人 8名

1 開 会	司 会	皆様、本日は御多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます戸田市立教育センター所長手塚でございます。よろしくお願いいたします。ただ今より、「平成29年度 第2回 埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会」をはじめさせていただきます。
2 事務局からの連絡	司 会	「2事務局からの連絡」をさせていただきます。はじめに、本日の日程でございますが、別紙の採択協議会次第にそって進めさせていただきます。本日使用いたします資料につきましては、取扱に十分御注意ください。 - また、本日は傍聴人「8名」がお越しです。資料1採択協議会規約第10条により本協議会は「公開」となっております。すでに、傍聴人手順を経て、傍聴人の守るべき事項につきまして事務局より説明済みでございます。戸ヶ崎会長、傍聴を許可することとしてよろしいでしょうか。
	会 長	異議なし (傍聴人入場)
	司 会	傍聴人の皆様にお願い申し上げます。先程、事務局職員からも説明していると思いますが、静粛に傍聴されますようお願いいたします。
3 挨拶	司 会	ここで、採択協議会長 戸ヶ崎 勤（とがさき つとむ）様に御挨拶をお願いいたします。
	会 長	- 埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会を代表いたしまして一言御挨拶申し上げます。 - 御案内のとおり、この第四採択地区は、蕨市、戸田市の2市で編成された採択協議会であり、両市が共同して同一の教科用図書、いわゆる教科書を採択することになっております。委員の皆様におかれましては、前回の第1回採択協議会以降も、教科用図書の研究に取り組まれてきたことと思います。 - 本日は、これまでの研究をもとに、平成30年度に使

4 議 事

司 会

用する小学校道徳科の教科用図書を選定することとなります。長時間の協議となりますが、公正かつ慎重な御協議をお願い申し上げ、挨拶といたします。

議 長

・ 議長については、「埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会規約第9条第2項」により、戸ヶ崎 勤 会長をお願いいたします。

委 員

・ 議事に入る前に確認いたします。議事録は、要点のみを記録することよろしいでしょうか。また、発言者については、実名でなく議長または委員という形よろしいでしょうか。

議 長

・ 異議なし。

議 長

・ 第2回採択協議会議事録の署名委員について確認します。前回の第1回採択協議会で署名委員を決めているので、蕨市教育委員会 松本隆男 教育長及び蕨市教育委員会 加藤正明 委員をお願いいたします。

(1) 報告(展示会場の
閲覧状況)

議 長

・ 本日の協議会の議事について確認します。次第のとおり、議事は(1)から(4)までです。(2)と(3)については、保護者代表による研究結果の聴取及び専門員の調査研究結果の報告を受けます。

事務局

・ 教科書の閲覧状況について事務局からの報告をお願いいたします。

・ 平成29年度教科用図書展示会場の閲覧状況について報告いたします。教科書展示につきましては、戸田市立教育センターで6月16日から6月29日までの14日間開催いたしました。保護者・一般が25名、学校関係者184名、教育委員会等関係者1名、計210名が閲覧いたしました。また、閲覧の際にアンケートの協力をお願いしました。意見としては、「どの教科書も考える視点がわかりやすくなっていた」「どの教科書も今日的な課題を取り上げていた」等でございます。アンケートを取りまとめたものを回覧いたしま

		すので、ご覧ください。
	議 長	・ 何か質問はありますか。
	委 員	・ 特になし
(2) 保護者の代表 による研究 結果の聴取	議 長	・ 規約第15条により、保護者代表の研究結果を聴取します。事務局に報告をお願いします。
	事務局	・ 保護者代表については、戸田市、蕨市の各 PTA 連合会に依頼し、代表の方を推薦していただきました。教科用図書全般にわたって研究していただきましたので、順次、その結果について報告いたします。 ・ はじめに、戸田市の保護者代表からの報告です。 ・ 表記・表現については、全般的に、読み易く興味を引くような文章で書かれており、テーマによってはさらに深く知りたくなる内容であると思う。分量については、1冊あたり30～40単元、130～180ページとなっており、どの教科書も、学ぶ分量として適当であると思う。資料には写真、図についてはマーク等が多く使用されて、視覚的にも理解しやすいと感じた。読み物教材や内容については、低学年では、「命・生活・ルール・マナー・家族・友達」等の日々の生活に即したテーマが中心となっている。高学年では、「努力・責任・真理・正義・心」等の社会の一員として生きるための力についてが主なテーマとなっており、発達の段階に応じて、理解に向けての工夫が見られた。高学年になるにつれて、世界に目を向けたり、偉人がテーマとなったりしていた。同じ題材をテーマにしても、史实的表現や説明的表現など、各社さまざまな表現があるように感じた。その他としては、巻頭に、道德学習についての具体的なアプローチ方法が記述されているものがあり、特に、「今の自分」を考えるとところから始まるものが多いように感じた。これにより、自分自身を見つめ理解した上で、理想の道德観を学び、身に付けていくことにつながると感じた。読み物を読

んで感動するだけでなく、考え方の手引きやアドバイスがあるため、テーマごとのより深い思考に結び付けることができると感じた。

- ・ 次に、蕨市の保護者代表からの報告です。
- ・ 表記・表現については、各教科書とも、レイアウト等でよく工夫されており、見やすく読みやすく作られていると感じた。分量については、別冊でノートが添付されているものがあり、それを活用して、自分の考えを記入させることにより、考えを深めたり確かめたりすることができると思った。難しい漢字に対しては、ルビが付けられており、漢字の苦手な子供にも対応できるように配慮されていると感じた。また、どの教科書にも、子供たちが読み物に対し、興味を引き付けるような、質の高い温かみのある写真や挿絵が多く掲載されていると感じた。教科書の中で、様々なマークやキャラクターを用いて、読み物のポイントや活動内容を容易に把握できるような工夫がされているものもあった。読み物教材や内容については、子供の心に訴えるような温かみのある読み物が多く、進んで物語の主人公になって考えたり、話し合ったりしたいと思えるように作成されていると感じた。どの教科書でも、生命の尊重やいじめ問題、情報モラルについて扱っていて、昨今の子供たちの問題を十分意識していると感じた。教科書によっては、巻頭に新しい道徳の授業についての説明が記載されているものがあり、授業で目的意識を持たせたり、自分を見つめさせたりするために極めて有効であると思った。また、話し合いや考えさせたいポイントが記載されている欄があり、その活用により、経験の浅い教員でもねらいに即した授業が進められると思った。

(3) 専門員の調査
研究結果の報
告と質疑応答

議 長

専門員
代表

- ・ 規約第13条により、専門員からの調査研究結果の報告を行います。
- ・ 道徳の調査研究結果を報告します。
(報告書に基づいて8社について報告する。)

議 長	・ 説明について質問はありますか。
委 員	・ 教科書の大きさの違いがありますが、内容や読みやすさに違いがありますか。
専門員 代表	・ 光村図書出版は、B 5 判で、コンパクトで持ちやすい印象があります。東京書籍、学校図書、教育出版、日本文教出版、廣済堂あかつきは、A B 判で行間も広く、ゆったりとしている印象があります。学研教育みらい、光文書院は、A 判で、行間も広く、教材が見開き右側から始まるように工夫されております。
委 員	・ 「考え、議論する道德」の転換が求められておりますが、教科書にどのように反映されていますか。
専門員 代表	・ 改訂の最重要方針として、読み物道德からの転換が挙げられています。課題意識をもたせる工夫、自分の考えを多面的、多角的に広げる工夫、問題解決的な学習や体験的な学習など多様な学習を促す工夫から、「考え、議論する道德」の実現を図っていると感じました。東京書籍は、学習の手引きとして「とびらページ・考えるポイント・考えるステップ」があり、問題を見つけて考える構成になっていると感じました。 学校図書の「活動」編には、「考えよう」「見つめよう」などのマークで分類された問いが設定されていて、問題解決的な学習、体験的な学習などを促す工夫がされていました。 教育出版には、「学びの手引き」に複数の問いがあり、道德的価値を深めることができるよう工夫されていました。 光村図書出版には、「考えよう」にめあてや問いがあり、課題を意識して学習ができるようになっていると感じました。 日本文教出版は、「考えてみよう 見つめよう 生かそう」があり、課題を深く考える問いや今後に生かす問いが設定されていると感じました。 光文書院には、本文の下段の展開時の問いや「まとめる」「広げる」の問いにより授業のまとめや生活の中で

	深めることができるように工夫がされていました。 学研教育みらいは、「考えよう」の問いにより、課題を深く考え、自己を見つめるきっかけとなるように工夫がされていました。 廣済堂あかつきは、「考えよう話し合おう」の問いにより、課題が明確になるように工夫がされていました。
委 員	・ 道德の教科化の背景には「いじめ問題」がありますが、どのように扱っていますか。
専門員 代表	・ いじめ問題については、それに関わる内容項目を重点化したり、教材を開発したり、効果的に配置したりするなど工夫が見られました。 東京書籍では、2つの教材を組み合わせたユニット形式になっていました。 学校図書では、「公正、公平、社会正義」の内容項目の教材とコラムも提示していました。 教育出版では、いじめ問題の教材には色分けしたマークを付け分かりやすくしていました。 光村図書出版は、いじめ問題に結びつく教材とコラムを合わせてユニットとしていました。 日本文教出版では、いじめ防止をテーマとし、複数の教材と「心のベンチ」を配置したユニット形式になっていて、学期に1回扱うようになっていました。 光文書院では、いじめを直接的・間接的に自分自身の問題として捉えられるような教材で、ほかにコラムも提示していました。 学研教育みらいは、「命の教育」を全学年の最重点テーマに掲げ、複数の教材を配置していました。 廣済堂あかつきでは、いじめ問題に対応するため、連続複数時間扱いのユニットとしていました。
委 員	・ 「いじめ問題」だけでなく、「命の教育」について、特に力を入れているところはありませんか。
専門員 代表	・ 生命尊重で力を入れているところは、学研教育みらいや廣済堂あかつきでありましたが、どの教科書も各学年において3教材ずつ扱っておりました。

	光村図書出版は、巻頭に生命尊重の詩を配置し、生命史研究者の書き下ろし教材も掲載されていました。
委 員	・ 扱いに大きな差はないと考えてよいですか。
専門員 代表	・ そのとおりです。
委 員	・ 現代的な課題の「情報モラル教育」について、どのように扱っていますか。
専門員 代表	・ 全ての教科書で扱われています。 東京書籍では、４年生から６年生で携帯電話の使い方について扱った教材がありました。 学校図書では、情報モラルに関する教材と、情報の受け手、発信者としての心構えをコラムに取り上げ、ユニット形式としていました。 教育出版では、情報モラルに関する教材には色分けしたマークを付け、分かりやすく表示していました。 光村図書出版では、情報機器を扱う際を想定した内容を紹介し、また、コラムを教材と組み合わせたユニット形式としていました。 日本文教出版では、情報社会の倫理や「節度・節制」などの観点で、高学年において、教材と関連付けながら学ぶ「こころのベンチ」も掲載していました。 光文書院では、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方や態度について考える教材とコラムとしても取り上げていました。 学研教育みらいでは、情報や情報機器を扱う際に気を付けるべきことを扱った教材の他に「学び方のページ」で解説を加えていました。 廣済堂あかつきでは、情報モラルについて考えることのできる教材に中・高学年では特集ページも設け活用できるように工夫していました。
委 員	・ 「国際理解教育」の取り扱いはどうでしたか。

専門員 代表	すべての教科書で取り上げられていました。 東京書籍、学校図書、教育出版、日本文教出版、学研教育みらいでは、国際理解・国際親善などに対応した教材を2教材、光村図書出版は、ユニット形式で2教材、光文書院、廣済堂あかつきでは、1教材を扱っていました。
委 員	道徳教育は全教育活動の要でもあるが、他教科との関連を図る工夫はどうか。
専門員 代表	東京書籍には、「つながる 広がる」があり、他教科とつながる教材を取り上げ、巻末の付録からは調べ学習に活用できるようになっていました。 日本文教出版には、「心のベンチ」があり、他教科につながる教材を取り上げ、活用できるようになっていました。 光文書院の、「ひろげる」問いは、道徳の時間に学んだことを他教科や学校での活動、家庭・地域とつながるポイントを示していました。
委 員	どの教科書も最初にオリエンテーションを用意していますが、どのような工夫がありますか。
専門員 代表	1年生の教科書で比べると、東京書籍では、はじめに「ようこそ、1年生」の扉のページから始まります。これから経験する場面を写真や挿絵で紹介し、文字を入れない構成になっています。「どうとくのじかんはね・・・」では、学習の仕方を紹介しています。 学校図書では、「道徳の学習を始めよう」から始まり、学習の進め方について、文章で説明しています。 教育出版では、「道徳の学習が始まるよ」から始まり、今の自分のことを記述し、道徳の学習について文章で説明しています。 光村図書出版では、「学校 大すき」から始まり、3教材までは、挿絵のみにし、文字を入れない構成になっています。 日本文教出版では、「道徳のとびら」として道徳科の意義や学び方を提示しています。他の教科書と比べると、

1 ページあたりの情報量が多くなっています。

光文書院の「さあ、道徳の学習が始まります」では、道徳科で学ぶ内容、学習の進め方、いろいろな場面でのつながりを提示し主体的に学習できるように工夫していました。

学研教育みらいの「道徳の学習が始まるよ」では、道徳の授業での学び方や1年間の学習内容が分かるようになっています。

廣済堂あかつきの「道徳の時間が始まるよ」では、学習の進め方を提示しています。始めの3単元は、挿絵のみになっていました。

議 長 ・ 他に質問はありますか。

委 員 ・ 特になし。

議 長 ・ 以上で、専門員の調査研究結果の報告を終わります。
この後は、教科用図書を選定する協議を行うことといたします。
ここで、暫時休憩いたします。

～休 憩～

(4) 協 議

議 長 ・ 議事を再開いたします。規約第11条に基づき、教科用図書を選定する協議を行います。先ほどの専門員の調査研究の報告も踏まえ、意見を伺います。
はじめに、それぞれの教科書について、特徴を中心に意見を伺い、その後、総合的にどの教科書を選定するか決めていきたいと思いますが、よろしいですか。

委 員 ・ 異議なし

議 長 ・ 目録の順で、まずは東京書籍から意見を伺います。

委 員 ・ 文字や写真、挿絵などが大きく見やすい印象を受けました。また、各教材の冒頭と末尾に考えるポイントが示されていました。全体的に、児童が学習意欲と見通しをもって主体的に学習できるように工夫されている

	と思います。
委 員	・ 主体的な学びを促す工夫として、学習の手引きとなる「とびらページ、考えるポイント、考えるステップ」が示されているところがよいと思いました。
委 員	・ 確かに、主体的に学習できるように工夫されていると思います。また、「読み物教材」と「学習活動ページ」で構成されており、「読み物教材」を通して考えた道徳的価値を深めるために「学習活動ページ」を効果的に配置していて、深い学びにつながると感じました。
委 員	・ 「出会う、ふれ合う」では、コミュニケーション活動を通して、道徳的価値について考えることができるようにしています。「考え、議論する道徳」を意識した構成になっていると感じました。
議 長	・ 現代的な課題の取り上げ方についてはどうですか。
委 員	・ 「いじめ問題」を全学年で重要項目として取り上げていました。複数の教材を組み合わせたユニット形式での配置は、先生が指導しやすいのではないかと思います。
委 員	・ 他にも、安全・防災教育や情報モラルなども取り上げられています。特に、情報モラルについては、1年生から6年生まで系統性が感じられました。
委 員	・ 子供たちが身近に感じられるような内容になっている印象を受けました。
議 長	・ 他にはどうですか。
委 員	・ 特になし。
議 長	・ 続いて、学校図書についてはどうですか。

委 員	・「読みもの」編と「活動」編の2冊で構成されていて、互いに連動していました。考えを深める活動を通して道徳的価値に迫ることができるようになっていたと思いました。
委 員	・「読みもの」編の各教材の冒頭には、主題が掲載されています。児童が問題意識をもって主体的に活動できるようになっていると感じました。
委 員	・「活動」編は内容項目ごとに構成されていました。児童自らが振り返り、見つめ直すことができる発問となっていて、先生が道徳的価値に迫る授業をしやすいのではないかと思います。
委 員	・「考えよう」「みつめよう」という学習活動を促すマークを付けています。さらに、「アクティブ」というマークでは、問題解決的な学習や体験的な学習など多様な道徳学習を促したりしているところは、授業をするときの参考になると思いました。
委 員	・現代的な課題の「いじめ問題」は各学年5、6教材で取り扱い、特に全学年で「公正・公平、社会正義」の内容項目を統一して配置していました。
委 員	・「生命の尊さ」を全学年の重点項目とし、教材に加えコラムでも扱っていました。「いじめ問題」についても、コラムでも考えることができるように工夫されていました。
委 員	・コラムについては、教材に加えて「読みもの」と「活動」の両方で配置されています。ユニバーサルデザインの観点を紹介するコラムも全学年で「活動」に掲載されていました。
委 員	・「情報モラル」については、全学年「節度・節制」等の内容項目に絡めて、具体的な生活場面に即し、発達の段階に応じた取り上げ方がされていました。

- | | |
|-----|---|
| 議 長 | ・ 他にはどうですか。 |
| 委 員 | ・ 特になし |
| 議 長 | ・ 教育出版についてはどうですか。 |
| 委 員 | ・ 教材ごとに授業の流れを想定した「学びの手引き」が設定されていて、児童が見通しをもって主体的に学習を進められるように工夫されていました。 |
| 委 員 | ・ 「学びの手引き」があることで、授業の流れが把握しやすくなっていると思います。また、内容項目ごとに導入の時の投げかけがあり、学習のねらいが明確になっていると思います。 |
| 委 員 | ・ 全学年の複数の教材で「ジャンプ」を設定しています。役割演技をすることによって道徳的価値の理解を深めることができるようになっていていると思います。 |
| 委 員 | ・ 役割演技に加えて、全学年にアクティビティやモラルスキルトレーニングを取り入れています。多様な体験的な学習で、道徳的な習慣や行動を身に付けられるようになっていていると感じました。 |
| 議 長 | ・ 現代的な課題についての取り上げ方はどうでしたか。 |
| 委 員 | ・ 現代的な課題として、「いじめをなくす」「情報モラル」「生命尊重」の３点では、色分けした特に大切なことのマークを付けてわかりやすく示していました。 |
| 委 員 | ・ 情報モラルでは、６年生のネットトラブルなど具体的な事例を挙げていて、身近に感じられるように工夫されていました。 |
| 委 員 | ・ 社会一般の礼儀や公共施設などでのマナーについて、巻末資料でまとめていました。特に４年生以上には、先人の伝記やスポーツ選手を扱った教材が多数掲載されていて、工夫されていると感じました。 |

- | | |
|-----|--|
| 議 長 | ・ 他にはどうですか。 |
| 委 員 | ・ 特になし |
| 議 長 | ・ 光村図書出版についてはどうですか。 |
| 委 員 | ・ 各教材「考えよう」で3段階の発問構成が提示されて、児童が主体的に考えられるよう工夫していました。 |
| 委 員 | ・ 「つなげよう」で、道徳で学んだことを日常生活の行動に生かせるようにしていましたが。他の学習や生活とも関連させる工夫が感じられました。 |
| 委 員 | ・ 確かに「考えよう」と「つなげよう」を設定することにより、一人一人の学びを日常生活と結びつくようにしていましたが。さらに、1時間1時間の学びが実生活に生きるように指導内容の順序も意識した配列にしていると思いました。 |
| 委 員 | ・ 1年間の4つのまとまりに分け、「学びの記録」を設けることで、自分の学びの変化や成長を振り返ることができるので、工夫していると思いました。 |
| 委 員 | ・ 特設ページや巻末付録があつて、授業時間以外でも児童が楽しみながら考えられるようにしていることも特徴だと思いました。 |
| 委 員 | ・ 現代的な課題については、「いじめ問題」と「情報モラル」が全学年で取り入れられています。教材とコラムを合わせて「ユニット」として、多面的、多角的に深く考えられるように工夫されていると思います。 |
| 委 員 | ・ 「生命尊重」も全学年を通して重点を置いていることが伝わってきました。「生命の尊さ」に関する教材が複数掲載されていると思いました。 |
| 委 員 | ・ 巻頭詩や書き下ろし教材なども印象に残りました。 |

議 長	・ 他にはどうですか。
委 員	・ 特になし。
議 長	・ 日本文教出版についてはどうですか。
委 員	・ 別冊で「道徳ノート」がついていて、児童が記述をすることで自ら振り返って成長を実感できるようになっていると感じました。
委 員	・ 家庭との連携も図ることができるようになっていていると感じました。
委 員	・ 書くことで、児童が多面的、多角的に思考を深めていくことにつなげられると思います。また、評価にも生かすことができると感じました。
委 員	・ 考えを引き出し、議論を活発にするために、全教材に発問の流れが提示されていました。また、「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」などが配置されていて、自発的な思考を引き出す工夫が感じられました。
委 員	・ 「学習の手引き」からも、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、道徳的価値を深められるようになっていると思います。
委 員	・ 「いじめ防止」が最重要テーマとして位置付けられていて、複数の教材と特設ページの「心のベンチ」を配置して、重点的に考えられると思いました。
委 員	・ 「心のベンチ」では、人間関係づくり、ソーシャルスキルなど、体験を通して自分の考えを広げたり、道徳的価値について深く考えたりできるようになっていると感じました。
委 員	・ 「情報モラル」「安全の確保」などの現代的な課題についても、複数の教材配置やユニットにして重点化されていると思います。

- | | |
|-----|--|
| 議 長 | ・ 他にはどうですか。 |
| 委 員 | ・ 特になし。 |
| 議 長 | ・ 光文書院についてはどうですか。 |
| 委 員 | ・ 児童が問題意識をもって主体的に学ぶことができる工夫がされていると感じました。巻頭のオリエンテーションのページや各教材下段の思考を促す「投げかけ」が提示されているところが特徴的でした。 |
| 委 員 | ・ 冒頭に問題意識をもつための問い、本文下段に物事を多面的・多角的に考えさせる問い、末尾にその時間に学習した内容を振り返る問いを提示していて、授業がしやすい作りになっていると感じました。 |
| 委 員 | ・ オリエンテーションで、話し合い活動の方法や道德ノートの例を提示し、各教材の「まとめる」「ひろげる」では、話し合いや書く活動、体験活動を示唆していて、学び方も学べる工夫がされていました。 |
| 委 員 | ・ 「学びの足あと」では、学習後の振り返りを行うことができる工夫がされていて、学習理解を深め、児童自らが成長を実感できるようになっていると思います。 |
| 委 員 | ・ 「いじめ問題」については、いじめを直接的・間接的に児童自身の問題として捉えられる工夫がされていると感じました。 |
| 委 員 | ・ 全学年に、発達の段階に合わせたコラムを配置し、学校生活において、児童自らがいじめ防止に主体的に関わる態度を育めるよう工夫されていると思いました。 |
| 委 員 | ・ 各学年で重点主題が設定されていますが、「生命の尊さ」については、6年間の見通しをもって取り組めるように、ユニットで配置していました。 |

- | | |
|-----|--|
| 委 員 | ・他にも、発達の段階に応じて、全学年で教材と関連することわざや名言を紹介するコラム、コミュニケーション能力を高めるグループワークを紹介していて、大変工夫されていると感じました。 |
| 議 長 | ・他にはどうですか。 |
| 委 員 | ・特になし。 |
| 議 長 | ・学研教育みらいについてはどうですか。 |
| 委 員 | ・巻頭に自分を見つめるページ、巻末に1年間の学びを振り返るページがあって、1冊で1年間の自分の成長を感じられる構成になっていました。 |
| 委 員 | ・4種類の「学び方のページ」、深めよう・つなげよう・やってみよう・広げようで学習を展開することで、多様な学びを創造し、多面的・多角的に自己の生き方について考えられるようにしていると思いました。 |
| 委 員 | ・言語活動を積極的に取り入れていると感じました。家庭との連携もできるように保護者の記述もできる工夫がされていました。 |
| 委 員 | ・児童自らが主体的に課題を発見し、解決することを重視していて、あえて主題名を本文に記載せず、児童の問題意識を大切にした構成になっているところも特徴があると感じました。 |
| 委 員 | ・いじめ問題に対応するため「いのちの教育」を全学年で最重要テーマに据え、連続複数時間扱いのユニットにしているところも特徴があると思いました。 |
| 委 員 | ・2学年ごとに重点テーマ「しっかり生きる」「仲よく生きる」「よりよく生きる」を設定し、発達の段階も重視していると思います。 |

委 員	・ 他にも児童になじみの深い人物を題材とした伝記やオリンピック・パラリンピックに関連する身近な人を積極的に取り上げているところも工夫されていました。
議 長	・ 他にはどうですか。
委 員	・ 特になし。
議 長	・ 廣済堂あかつきについてはどうですか。
委 員	・ 教材と道徳ノートの2分冊で構成されていた。道徳ノートに記述したり、振り返ったりすることで児童が自己の成長や課題、目標を見つけられるようになっていると思いました。
委 員	・ 協働的な学習を通して自己の生き方についての考えを深め、別冊では書くことを通して価値の理解を確かなものにできるようになっていると思います。
委 員	・ 別冊の巻末にある「心のしおり」を利用して、自己評価ができるようになっていました。また、教員や家庭の記録欄も設定されているのが印象的です。
委 員	・ 教材ごとに「考えよう 話し合おう」が設定されていて、低学年では2つの問い、3学年以降は学習のめあてと問いを掲載し、児童が主体的に取り組めるように工夫がされていました。
委 員	・ 「学習を広げる」コーナーでは、道徳的価値のさらなる深まりを促すような人物や本の紹介、格言などを掲載していて、おもしろいと思いました。
委 員	・ 全学年にわたって「生命尊重」に重点をおいて、各学年の重点項目を設定していると思います。
委 員	・ 現代的な課題に関わる「生命尊重」「ともに生きる社会」「情報モラル」について考えるページが3年生以上の巻末にあり、工夫されていると思いました。

- | | |
|-----|---|
| 議 長 | ・ 他にはどうですか。 |
| 委 員 | ・ 特になし。 |
| 議 長 | ・ ただ今、8社の教科書の特徴を中心に意見を述べていただきましたが、ここからはこれまでの報告や意見を総合的に踏まえ、第4採択地区としてどの教科書を選定するか協議していきます。意見をお願いします。 |
| 委 員 | ・ まず、教科書のサイズからでいいですか。
私は、学研教育みらいや光文書院は、他の教科書より大きいA判で、行間が広く読みやすく、教材が見開きの右側から始まるように工夫されているのがよいと感じました。 |
| 委 員 | ・ A B判の東京書籍、学校図書、教育出版、日本文教出版、廣済堂あかつきでも、行間が広く、ゆったりとして読みやすいと思いました。 |
| 委 員 | ・ 大きいサイズは、読みやすさがあるが、光村図書出版のB 5判も持ちやすいと思います。 |
| 委 員 | ・ 大きさの違いはありますが、どの教科書も読みやすいような工夫があると思います。 |
| 議 長 | ・ 他に意見はありますか。 |
| 委 員 | ・ これから「考え、議論する道徳」の転換が求められていて、どの教科書も考えたり、話し合ったりして学習が進められるように工夫がしてありました。私は、東京書籍の「学習の手引き」として「とびらページ、考えるポイント、考えるステップ」がよいと感じましたが、皆さんはいかがですか。 |
| 委 員 | ・ 東京書籍の「学習の手引き」も確かに、考え、思考を深めていくのによいと思います。私は光文書院の本文下段の展開時の問いや「まとめる」「広げる」の問いが、授業のしやすさという点でよいと感じました。また、 |

	学研教育みらいの「考えよう」も課題を深く考えるきっかけとなると感じました。
委 員	私は、学校図書の「考えよう」「見つめよう」や日本文教出版の「考えてみよう 見つめよう 生かそう」が深く考え、今後に生かす問いになっていると感じました。また、議論するという観点では、廣済堂あかつきの「考えよう 話し合おう」の問いは話し合いにつながると感じました。
委 員	どの教科書にも、「考え、議論する道徳」の転換を図るための工夫が見られると思います。
委 員	その中でも、私は、光文書院のコラム「みんなでやってみよう」が全学年に設置されていることについてもよいと思いました。コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の構築に向けてグループワークが提示されていました。
委 員	東京書籍は、学習活動のページ「出会う・ふれ合う」で、他人とのコミュニケーションを通して、道徳的価値について考えることができるように工夫されていると感じました。
議 長	では、次期学習指導要領で求められている「主体的、対話的で深い学び」の実現についてはいかがですか。
委 員	全ての教科書で意識されていると感じましたが、私は教育出版や光村図書出版、日本文教出版、光文書院などが、冒頭に問いを設定していて、課題意識をもって取り組めると感じました。
委 員	光文書院は、主題と導入時の問いの他に、展開時の問い、主題に迫るための問い、学んだことを生活の中で生かすための問いを各教材に記載して、対話的な学びを促していると感じました。
委 員	東京書籍の「問題を見つけて考える」視点としての「考

	えるステップ」も対話的な学びを促すものと感じました。課題意識を生む問いや段階的に考える問いが各社ともに工夫されていました。
議 長	・では、自分の考えをまとめたり、広げたりするための工夫についてはいかがでしょうか。
委 員	・まとめる工夫として、ノートを活用するのが、学校図書、日本文教出版、廣済堂あかつきで、記述の分量は多くなると感じました。
委 員	・光村図書出版は、教科書の途中3・4か所に「学びの記録」があり、毎時間の学習をまとめることができます。教育出版、学研教育みらいは、冒頭に自分のことを書くページ、巻末は1年間を振り返るページ、自分の考えを書き込めるページがありました。
委 員	・東京書籍と光文書院は、巻末に毎時間の学習をまとめ、記述することができるようにすることで、焦点化して振り返ることができるところがよいと思いました。
委 員	・私も同感です。光文書院と東京書籍は、ねらいを絞って自分の考えをまとめるところがよいと思いました。
委 員	・私も東京書籍と光文書院が端的にまとめられ、しかも自分を振り返るきっかけとなると感じました。
議 長	・道徳の教科化の背景にもなっている「いじめ問題」についてはいかがでしょうか。
委 員	・東京書籍や光村図書出版、日本文教出版、廣済堂あかつきは、ユニット形式で複数の教材やコラムと組み合わせることで、重点的に取り組めるように工夫していると思いました。
委 員	・光文書院は、いじめを自分自身の問題として捉えられるような教材を取り扱っているように感じました。また、学研教育みらいは、いじめ問題に対応するため「い

	のちの教育」を最重点テーマにしていると感じました。
委 員	・ 教育出版は、いじめ問題の教材には色分けしたマークを付け、分かりやすく工夫されていると思います。
委 員	・ どの教科書も重点課題として、取り扱っていると思います。
議 長	・ 道德の授業は、全教育活動を通して行う道德教育の要と言われますが、他教科との関連については、いかがですか。
委 員	・ どの教科書でも関連を図る工夫が見られましたが、私は、東京書籍「つながる 広がる」が他教科との関連を取り上げていると感じました。
委 員	・ 私も、東京書籍の巻末の付録から調べ学習ができるところがよいと感じました。
委 員	・ 私は、光文書院のコラムが充実していて、他教科との関連を図る教材を活用できるように工夫されていると思いました。
委 員	・ 学研教育みらいの「ひろげよう」も他教科とつながるような教材が取り上げられていてよいと思います。
議 長	・ 他教科との関連とともに、道德的判断力、心情、実践意欲、態度を高めていく工夫についてはいかがですか。
委 員	・ 私は、学校図書や教育出版、光村図書出版が実生活と結びつけて考えられると思いました。
委 員	・ 東京書籍では「出会う・ふれ合う」で他人とのコミュニケーションをとおして、考えられるようになっていて、よいと思います。
委 員	・ 私は、光文書院の「ひろげる」が道德の学習で学んだことが他教科や家庭生活、地域社会へとつながるよう

	なポイントを示していて、よいと感じました。
委 員	・ 確かに、東京書籍と光文書院は、学んだことを実生活で生かそうという意識をもたせる点で、私もよいと感じました。
議 長	・ これまでの御意見をまとめていくと、どの教科書についても特に問題点は指摘されず、各社ともに大変工夫がされていました。 中でも、特に東京書籍と光文書院の特徴について多く意見が挙げられていたようですが、この2社に絞って更に協議してよろしいですか。
委 員	・ 異議なし
議 長	・ では、東京書籍と光文書院の2社についてさらに意見をいただき、最終的に第四採択地区として教科用図書を選定します。
委 員	・ 私は先ほども申したが、光文書院の本文下段の展開時の問いが、他社にはない特徴で、児童の「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、よさを感じました。
委 員	・ 私もそう思います。他にも、光文書院の「ひろげる」の部分で道徳の学習で学んだことが他教科や家庭生活、地域社会へとつながるようなポイントを示しているところもよいと感じました。
委 員	・ 東京書籍にも同じような点が挙げられ、甲乙つけがたいのが正直なところであります。先ほど、光文書院のコラムが充実していて、他教科との関連を図る教材を活用できるように工夫されているとの意見がありましたが、確かに他教科への広がりを感じられます。
委 員	・ 私も、東京書籍のよさも非常に感じていますが、光文書院は、冒頭に問題意識を持つための問いや本文下段の物事を多面的・多角的に考えさせる問い、末尾の学習した内容を振り返る問いといった児童の思考を促す

問いが充実している点が特によいと感じます。

委 員 ・ 確かに光文書院は問いが充実していて、特に、本文下段の問いはどの教員でも授業がしやすいと思います。
また、「学びの足あと」についても、学習理解を深め、児童自らが成長を実感できるようになっているところがよいと思います。

委 員 ・ 現代的な課題についても、光文書院はバランスよく配置されている印象を受けました。

委 員 ・ 確かに光文書院は「いじめ問題」についても、児童が自分自身の問題として捉えられるような教材が選定されていました。

委 員 ・ 私も同感です。

議 長 ・ 他に意見はありますか。

委 員 ・ 特になし。

議 長 ・ 意見をまとめると、光文書院が発行する教科用図書でよろしいですか。

委 員 ・ 異議なし

議 長 ・ それでは、第四採択地区として、光文書院が発行する教科用図書を選定いたします。
各市教育委員会においては、本日の選定結果に基づき採択していただきます。仮にどちらかの市が、本日の選定結果に基づいた採択をされない場合には、再度この協議会を開くこととなります。
以上で、議長の任を解かせていただきます。御協力に感謝申し上げます。

5 挨拶

司 会 ・ 松本副会長から挨拶をいただきます。

副会長 ・ 本日は、委員の皆様には埼玉県第四採択地区の平成

30年度使用小学校教科用図書採択に関わり、最後まで熱心に御協議いただきありがとうございました。

第1回採択協議会以降、保護者、専門員の方々をはじめ、各市教育委員会の関係者の皆様には、資料の御準備等お世話になりました。

今回の協議し、選定した内容をもとに、各教育委員会で採択していただくこととなりますが、よろしくお願いいたします。

本協議会は、蕨市、戸田市の小学生が、学習の主たる教材として使用する教科用図書の選定について協議するという重要な会議でしたが、皆様の御協力により、滞りなく協議を終えることができましたことに対して、心より御礼申し上げます。

6 閉 会

司 会

- ・ 以上をもちまして、「平成29年度 第2回 埼玉県第四採択地区教科用図書採択協議会」を閉会いたします。ありがとうございました。